

玉名市文化財調査報告 第14集

石貫ナギノ横穴群

— 確認調査報告書 —

2005(平成17)年.3月

玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告 第14集

石貫ナギノ横穴群

— 確認調査報告書 —

2005(平成17)年.3月

玉名市教育委員会

ご挨拶

玉名市を含む菊池川流域は、古墳時代に築かれた装飾古墳の宝庫であり、その内容・分布ともに全国で最も充実している地域であります。玉名市域には、国指定史跡である大坊古墳、永安寺東・西古墳、石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群があり、貴重な文化財を保存・活用するため、昭和52年度から大坊古墳、平成11年度から永安寺西・東古墳の保存整備を手がけております。

本書は、平成15年度に実施した、国史跡石貫ナギノ横穴群周辺の確認調査の報告書です。本遺跡は、石貫穴観音横穴と共に装飾のある横穴墓として、玉名市が全国に誇る文化財の一つであり、最近石貫まちづくり委員会が実施している「一区一輝運動」の中核として活用が検討されています。

今回の調査が、今後の保存と活用の基礎的な資料となると共に、市民の皆様をはじめ、一般の方々の文化財に対する理解の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査、報告書作成にあたっては、各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月31日

玉名市教育委員会
教育長 森 義臣

例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成15年度に国・県の補助を受けて実施した、石貫ナギノ横穴群の確認調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会社会教育課竹田宏司が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、竹田のほか、末永 崇、藪父雅史、古賀武子、平野輝代が作成した。精図は竹田、末永が行った。
4. 遺物の実測、精図は、末永が行った。
5. 調査時の写真撮影は、竹田が行い、遺物写真撮影は末永が行った。
6. 挿図に使用している座標値は、国土調査法第2座標系に基づいており、方位はすべて座標北を示す。
7. 出土遺物の整理作業は、玉名市文化財整理室で行った。
8. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
9. 本書の執筆は竹田、末永が行い、編集は末永が担当した。

本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

1 調査の経緯	1
2 地理的環境	3
3 歴史的環境	3
4 調査体制	4
5 調査の方法	5
6 調査の成果	7
7 まとめ	13
報告書抄録	40

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図	2
第2図 調査地周辺遺跡分布図(古墳時代)	6
第3図 石貫ナギノ横穴群トレンチ配置図	8
第4図 調査地周辺地籍図及びトレンチ配置図(1)	9
第5図 調査地周辺地籍図及びトレンチ配置図(2)	10
第6図 確認調査トレンチ実測図(1T, 2T)	15
第7図 確認調査トレンチ実測図(3T, 4T)	16
第8図 確認調査トレンチ実測図(4T, 5T)	17
第9図 確認調査トレンチ実測図(6T, 7T)	18
第10図 確認調査トレンチ実測図(7T, 8T, 10T)	19
第11図 確認調査トレンチ実測図(9T, 11T, 16T, 17T)	20
第12図 出土遺物実測図	21
第13図 石貫穴観音横穴周辺地籍図	23

表 目 次

第1表 平成15年度石貫ナギノ横穴群確認調査出土遺物観察表	22
-------------------------------	----

図 版 目 次

図版 1	石貫ナギノ横穴群(南東から).....	26
図版 1	石貫ナギノ横穴群(北東から).....	26
図版 1	第1トレンチ全景(南西から).....	26
図版 2	第1トレンチ土層堆積状況(南から).....	27
図版 2	第2トレンチ上段全景(東から).....	27
図版 2	第2トレンチ上段土層堆積状況(西から).....	27
図版 3	第2トレンチ下段全景(南から).....	28
図版 3	第2トレンチ下段土層堆積状況(南西から).....	28
図版 3	第3トレンチ全景(東から).....	28
図版 4	第3トレンチ下段土層堆積状況(西から).....	29
図版 4	第4トレンチ全景(東から).....	29
図版 4	第4トレンチ上段全景(東から).....	29
図版 5	第4トレンチ上段土層堆積状況(西から).....	30
図版 5	第4トレンチ下段全景(西から).....	30
図版 5	第5トレンチ上段全景(東から).....	30
図版 6	第5トレンチ上段土層堆積状況(西から).....	31
図版 6	第5トレンチ下段全景(西から).....	31
図版 6	第6トレンチ全景(東から).....	31
図版 7	第6トレンチ下段全景(西から).....	32
図版 7	第7トレンチ上段全景(東から).....	32
図版 7	第7トレンチ上段土層堆積状況(西から).....	32
図版 8	第7トレンチ上段土層堆積状況(東から).....	33
図版 8	第7トレンチ下段全景(西から).....	33
図版 8	第8トレンチ全景(北東から).....	33
図版 9	第8トレンチ全景(北東から).....	34
図版 9	第9トレンチ全景(北東から).....	34
図版 9	第9トレンチ上部(北東から).....	34
図版 9	第9トレンチ全景(南西から).....	34
図版10	第10トレンチ全景(南東から).....	35
図版10	第11トレンチ全景(南東から).....	35
図版10	第11トレンチ土層堆積状況(南東から).....	35
図版11	第12トレンチ全景(南西から).....	36
図版11	第13トレンチ全景(南西から).....	36
図版11	第14トレンチ全景(南から).....	36
図版12	第15トレンチ全景(南から).....	37
図版12	第16トレンチ全景(南から).....	37
図版12	第17トレンチ全景(南から).....	37
図版13	2・3・7・9・10・12・19・21.....	38
図版14	22・23・26・28・29・32・33.....	39

1 調査の経緯

石貫ナギノ横穴群及び石貫穴観音横穴は、大正6年に京都帝国大学が調査を行い、京都帝国大学文科大学研究報告が刊行され、広く知られることとなった。大正10年3月には両横穴群ともに国指定となっている。

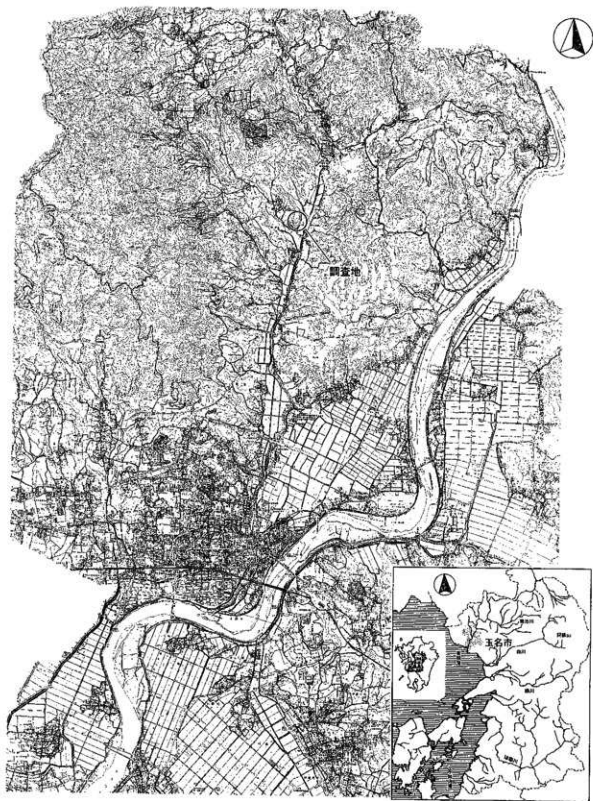
昭和54年には、熊本大学考古学研究室が測量調査を行い、翌年には報告書が刊行されている。続いて昭和56年から昭和58年にかけては、熊本県教育庁が装飾古墳総合調査を実施し、昭和59年に刊行された『熊本県装飾古墳総合調査報告書』にその成果がまとめられている。

熊本大学の調査の段階では43基が報告されているが、熊本県装飾古墳総合調査では48基となっている。熊本大学による調査では、北側の3基及び南側の2基が含まれていない。南側の1基については、それ以前の配置図で1号墓とされていたものと、昭和45年に新たに確認された西側に開口するとみられる1基である。装飾古墳総合調査報告書では、熊本大学による1号墓から43号墓を基本に、北側の3基を44～46号墓とし、南側の2基を47号・48号墓としている。44～46号墓については、現在の国指定範囲に含まれていない。南端に位置する48号墓は、昭和48年に熊野座神社旧参道の脇で発見されており、文化庁長官宛に発見届が提出されている。現在天井部の一部が崩落しており、本来は南西方向に開口するとみられる。付近から北側の石貫穴観音横穴にかけての西側崖面は、現状では横穴墓は確認されていないが、今後注意を要する。なお、西側崖下に位置する民家の庭から須恵器の高坪が出土しており、横穴墓の存在を窺わせる。

玉名市では、平成4年に「文化財総合整備計画」を策定し、両横穴群の一体的な整備と、国指定史跡大坊古墳や永安寺東古墳・西古墳なども有機的に結んだ活用を打ち出している。昭和57年に策定した「緑のマスタープラン」においては、歴史公園としての位置づけがなされており、平成11年策定の「都市計画マスタープラン」においても引き継がれている。

近年では、市が助成を行い、各小学校区毎に「一区一輝運動」と称するまちづくりを行っている。両横穴群が位置する石貫校区では、石貫ナギノ横穴群を核としたまちづくり計画を策定しており、横穴群に隣接する民家を整備し、「ナギノ交流館」として、見学者の便宜を図るとともに、まちづくりの拠点となる施設を設けている。地元住民からも、両横穴群の保存整備に関する要望が出されるなど、整備に向けての機運が高まっている状況である。

石貫ナギノ横穴群については、横穴墓本体が含まれる旧熊野座神社境内が一筆指定となっており、見学者が足を踏み入れる横穴墓前庭部分は民有地のままである。昭和40年代には地権者から公有地化の要望があっているが、実現していない。このため、今後の保護と活用を前提に追加指定を目指すこととして、現在未指定となっている石貫ナギノ横穴群前面の前庭部に相当する部分の状況を把握するために、今回の調査を実施したものである。横穴墓本体については、これまでも実測及び配置図の作成等の調査が行われていたが、前庭部に相当する部分については未調査であった。同時に未指定である北側の44号墓から47号墓周辺についても分布調査を実施し、範囲の確認を行った。また、石貫穴観音横穴についても、5号墓が指定範囲からはずれていることが指摘されていたため、公共座標による測量を行い、位置を確認している。



第1図 調査地位置図 S=1/50,000

(参考文献)

- 濱田耕作 1967『肥後における装飾ある古墳及横穴』京都帝国大学文学部研究報告第1冊
西住欣一郎・宮本千絵編 1980『石貫ナギノ・石貫穴観音横穴群』金隆会
熊本県教育委員会 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第68集

2 地理的環境

玉名市北部には、標高501.4mの筒ヶ岳を中心とする小代山地が位置している。その南東麓に広がる石貫丘陵性台地は、Aso-4火砕流堆積物からなっており、台地の開析によって丘陵地や谷が形成されている。南流する繁根本川沿いには低地が広がり、段丘が形成されている。

Aso-4火砕流堆積物の溶結部には柱状節理が発達しており、鉛直に近い崖を形成している。この崖に両横穴群をはじめ、多くの横穴群が形成されている。繁根本川の左岸、支流の山口川にはさまれて南へ延びる舌状の台地の、東側の崖面に石貫ナギノ横穴群、西側の崖面に石貫穴観音横穴がそれぞれ位置している。阿蘇溶結凝灰岩は適当な堅さを持ち、柱状節理により大型の原石が得やすいため、石材として利用されてきたものと指摘されているが、この柱状節理が崩壊することにより、ナギノ横穴群については、失われつつある横穴墓も多い。

ナギノ横穴群の前庭部に相当する部分は、段丘となっており、下段の水田面より3～5m程度の比高差がある。現状は、一部が畑地若しくは水田となっている他は、ほとんどが山林である。かつては崖下からの湧水を利用して田畑として耕作されていた部分も多く、平坦面が形成されている。8号墓周辺については、除草作業等の管理を行っており、比較的整えられているが、南端部と北側についてはほとんど手入れがされていない。竹林も利用価値が低くなったため放置されており、藪が生い茂っている状態である。このため北端の3基については、近づくのも困難な状態であった。

(参考文献)

- 規工川宏輔他 1993『玉名市史』資料篇3自然民俗 玉名市

3 歴史的環境

菊池川下流域は、凝灰岩の露頭が各所にみられ、宇土半島基部、氷川下流域とともに古墳時代の畿内大王墓に採用された石棺製作地として想定されている。玉名市域周辺では、前期から中期にかけて、凝灰岩製の舟形石棺を主体部にもつ山下古墳、院塚古墳、天水経塚古墳、天水大塚古墳などの古墳がみられるほか、多数の舟形石棺が分布しており、石貫ナギノ・穴観音両横穴群の位置する丘陵上にも舟形石棺の存在が知られている。

菊池川左岸に位置し、凝灰岩製横口式家形石棺を主体部にもつ江田船山古墳は、銀象眼の銘を持つ大刀や豊富な副葬品でとみに著名である。垂飾付耳飾りを出土している古墳が熊本県内で5カ所確認されているが、江田船山古墳をはじめ、大坊古墳、伝左山古墳、城ヶ辻6号墳が玉名市と隣接する菊水町に集中しており、有明海を介した朝鮮半島とのつながりも指摘されている。

6世紀以降は多くの装飾古墳が知られている。石貫ナギノ横穴群・石貫六観音横穴から東約2kmの菊池川を望む丘陵端部には、大坊古墳、永安寺東古墳、永安寺西古墳が現存しており、消滅した馬出古墳も彩色系の装飾古墳である。やや上流左岸の江田船山古墳で知られる清原古墳群には、塚坊主古墳がある。いずれも、凝灰岩を用いた横穴式石室を有している。

繁根木川流域、木葉川右岸の木葉山西麓、菊水町江田周辺などには、凝灰岩の露頭に多くの横穴群が営まれている。石貫ナギノ横穴群と石貫六観音横穴の周辺では、石貫古城横穴群や繁根木川左岸に横島横穴群、城迫間横穴群などの彩色系装飾横穴墓があり、やや下流には彩色及び線刻による装飾を持つ原横穴群が位置している。このほか、菊池川左岸の木葉川流域には田崎横穴群がある。

中世から近世にかけても凝灰岩の利用は続いていたものとみられ、玉名市周辺は石造物の宝庫である。菊池川を望む玉名市青木の県指定史跡青木磨崖梵字群が存在する崖面では、採石の跡が認められる。現在確認されている採石の痕跡は近世以降のものともみられるが、それ以前の採石の可能性もある。その他、諸所に採石の痕跡をみることができ、今日ではやや上流の菊水町で採石を行っているほか、玉名市域では採石を行っているところはない。

4 調査体制

確認調査（平成15年度）

調査主体：玉名市教育委員会

調査責任：教育長 三次昭也（至平成15年12月19日）

教育長 森 義臣（自平成15年12月22日）

教育次長 久多見澄夫

調査総括：社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐 西田道彦

調査事務：文化係長 岩永次郎

文化係主事 清田静香

調査担当：文化係参事 竹田宏司

文化係埋蔵文化財発掘調査員 巖父雅史

作業員：雪野雪義 河野俊夫 境 昭一 北田ティ子 吉井哲也 古賀武子 平野輝代

調査指導及び協力者（敬称略）

坂井秀弥（文化庁） 高妻洋成（奈良文化財研究所） 朽津信明（東京文化財研究所）

甲元真之 杉井 健（熊本大学） 高木正文 西住欣一郎 亀田 学（熊本県文化課）

池田朋生（熊本県立装飾古墳館） 美濃口雅朗（熊本市教育委員会）

徳永 龍（玉名市公民館石貫支館長） 国武利春（石貫4区区長）

城戸哲也（石貫校区まちづくり委員会委員長） 地権者の皆さん 石貫4区の皆さん

報告書作成（平成16年度）
調査主体：玉名市教育委員会
調査責任：教育長 森 義臣
 教育次長 久多見澄夫
調査総括：社会教育課長 西田道彦
調査事務：文化係長 竹田宏司
 文化係主事 清田静香
報告書担当：文化係主任 末永 崇
 文化係埋蔵文化財調査員 董父雅史
整理作業員：古賀武子 平野輝代
調査指導及び協力者（敬称略）
 古城史雄（熊本県玉名教育事務所） 中原幹彦（楳木町教育委員会）
 木村龍生（熊本県文化課） 榎 佳克（熊本大学埋蔵文化財調査室）

5 調査の方法

ナギノ横穴群の前庭部が想定される丘陵端部の傾斜地についてトレンチを設定し、旧地形及び遺構の確認を行った。基本的に、地形の傾斜に直行する方向に幅1m前後でトレンチを設定している。あわせて、横穴群南東側の水田についても、将来の土地利用を考慮し、トレンチを設定した。横穴群の前庭部に相当する部分は、ほとんどが山林になっており、横穴群に直射日光が当たるのを防いでいる。このため急激な環境の変化を考慮し、最低限のトレンチの設定を行っている。水田部分のトレンチについても、今後の耕作への影響を考慮し、最小限のトレンチの設定としている。なお、39号墓から最北端の44～46号墓周辺にかけては、立入りが困難なほどの藪になっていたため、分布調査を行うにあたり見通しが利く程度の伐採を行っている。

第1トレンチから第3トレンチ及び第4トレンチ下段については、人力による掘削が困難であったため、重機を使用して表土の掘削を行った。第4トレンチ上段及び第5トレンチから第9トレンチについては、重機の進入により横穴墓へ影響を与える可能性があることから、全て人力による掘削である。

各トレンチについては、縮尺1/20で土層断面図及び平面図を作成している。トレンチの位置については、玉名市地籍調査に伴う基準点を使用し、日本座標系の座標を用いて、光波測距儀による測量を行い、縮尺1/200で配置図を作成した。レベルについても、玉名市地籍調査に伴う基準点を使用している。個々の横穴墓の位置については、一部を光波測距儀により測量し、熊本大学が作成した配置図を、改変のうえ当て嵌めている。今後、改めて詳細な測量を行う計画である。

写真は、35mmの一眼レフカメラを使用し、カラーリバーサル及びモノクロネガフィルムによる撮影を行い、補助的にカラーネガフィルムを用いて調査過程等の記録を行っている。

6 調査の成果

第1トレンチ（第6図）

ナギノ横穴群の丘陵から南へ延びる段丘状の微高地南端部に設定したトレンチである。宅地となっており、東側水田面との比高差は3m近い。「ナギノ交流館」駐車場として使用されているため、駐車場の使用を妨げないよう、その南端に3mの長さで設定した。現在の地表面は碎石と山砂で整地されており、Ⅱ層とした旧表土が30～50cmの厚さである。その下には褐色を呈する粗砂層が認められ、地山と判断した。遺物、遺構ともに確認されていない。

第2トレンチ（第6図）

第1トレンチを設定した宅地の北側、畑となっていた部分に設定したトレンチである。南側の宅地とほぼ同レベルである。

第1トレンチとは大きく様相が異なり、表土の下に耕作によるものとみられるⅡ層が堆積しており、さらにⅢ層とした黒褐色土の堆積が認められる。Ⅲ層は、わずかな締まりと混入物の違いなどから、さらに細かく分層している。無遺物層と判断したⅣ・Ⅴ層の上面には、ステップが認められ、第3トレンチの落ち込みへ続くものと判断している。ステップには、場所により薄い砂の堆積が認められ、水流の作用によるものと判断している。また、鉄分の貫入がみられる。Ⅲ層中には凝灰岩の破片が多く含まれているが、1点のみ安山岩の板石が出土しており、横穴墓の閉塞石であった可能性がある。Ⅲ層からは、古墳時代及び弥生時代中期の遺物が出土しているが、細片が少量である。（第12図）

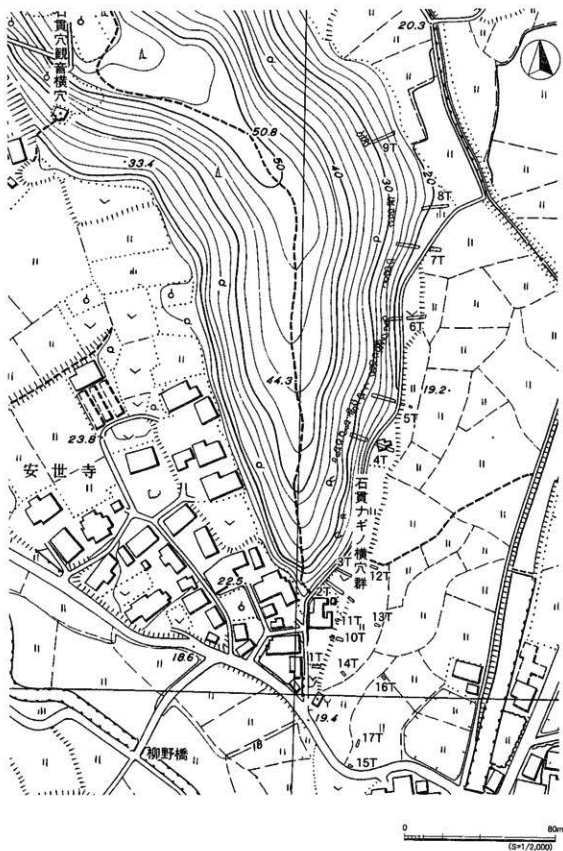
第3トレンチ（第7図）

第1・第2トレンチの宅地の北側に連なる畑地に設定したトレンチである。土層の堆積状況は第2トレンチと近い内容である。表土の下にⅡ層とした旧耕作土があり、その下に、Ⅲ層とした黒褐色土層が薄く認められる。Ⅴ層とした地山の粗砂層上面において、第2トレンチへ続くものとみられるステップと、南北方向に続くものとみられる浅い溝状の落ち込みが確認されている。

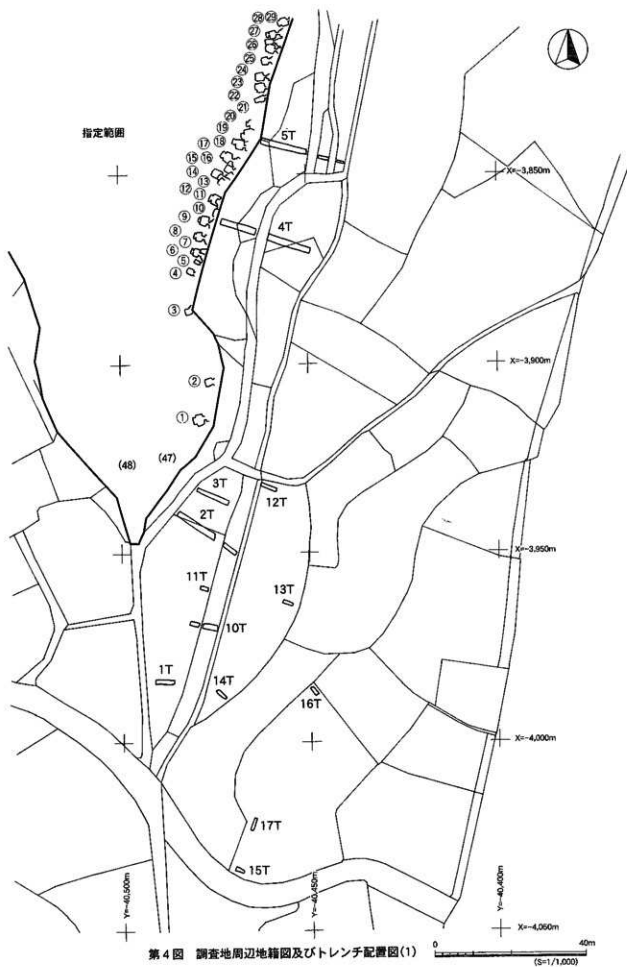
第4トレンチ（第7・8図）

ナギノ横穴群中最大規模の8号横穴墓の前底部に相当する部分に設定したトレンチである。現在の地表面は、西端部でも横穴墓の底面から1m程低くなっている。さらに、東側の里道をはさんで東側の低い段にも、続けてトレンチを設定している（下段）。上段のトレンチは、ほぼ全面に崩落したとみられる凝灰岩片が広がっており、また、締まりが非常に強いため掘削が困難であった。このため、Ⅳ層若しくはⅤ層に到達しておらず、遺構の有無も明確にできなかった。Ⅱ層・Ⅲ層からは、若干の須恵器、鉄製品などが出土している。（第12図）

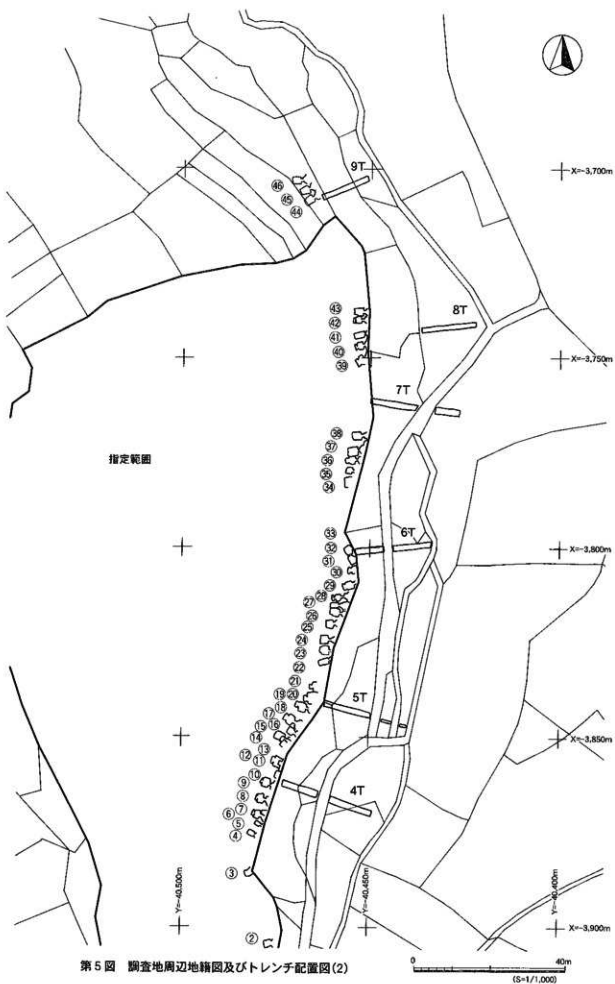
下段では、湧水のため途中で掘削を断念した。ナギノ横穴群全体にわたり所々で現在でも湧水が認められる。以前はさらに多くの湧水点があり、第4トレンチ周辺でも湧水がみられた。現在では、この湧水点は埋められている。湧水に阻まれて完掘が困難であったが、西端部でサブトレンチを設



第3図 石貫ナギノ横穴群トレンチ配置図



第4図 調査地周辺地籍図及びトレンチ配置図(1)



第5図 調査地周辺地精図及びトレンチ配置図(2)

定し、地山の粗砂層を確認しており、繁根木川に向かって緩やかに傾斜しているものとみられる。上段のⅢ層が、里道をはさんで東側に徐々に下がりがりながら続いており、里道の際の付近で多量の土器が出土しているが、原位置を保っているものではない。ほとんどが須恵器の甕胴部片である。(第12図)

第5トレンチ(第8図)

第4トレンチの北側、19号墓の前に設定したトレンチである。里道をはさんで、上段の部分と、一段下がった中段、そして東側の水田部分に設定している(下段)。西端の崖面に接した部分では、凝灰岩の下部が非常に軟質であり、色調もⅣ・Ⅴ層と近似した褐色を呈するため、層位の上下関係を明確にすることができなかったが、Ⅲ層自体が溶結度の低い凝灰岩ととらえている。

上段では、表土の下はほぼⅤ層であるが、崖面の直下では、全体がやや窪んでおり、その底面において崖面に平行に延びる小規模な溝状遺構を検出している。窪んでいる部分に堆積している土は、黒褐色を呈しており、便宜上Ⅲ層としているが、中段のⅢ層とは違って粘性が弱く、さらさらの状態である。明確な遺物を伴わないため時期は明確にできないが、後世のものである可能性が高い。前庭部の遺構については明確に確認することはできなかった。中段の黒褐色の覆土を持つ落ち込みの部分から、比較的まとまった量の遺物が出土している。古墳時代の須恵器がほとんどであるが、中世の青磁片が含まれている。(第12図)

第6トレンチ(第9図)

第5トレンチの北側、横穴の確認されていない部分に設定したトレンチである。里道をはさんで、上段の部分と、東側の畑地に設定している(下段)。上段では、表土の直下に無遺物層が確認されており、遺構・遺物ともに確認していない。崖面の直下では大きな空洞が認められ、湧水により抉られたものと考えている。数力所に下段に向かって地滑り状の亀裂が認められる。

下段のトレンチは、最下段の水田面まで対象にしており、現状で1m程度の段差がある。下段の上位で等高線に平行に溝状遺構が確認されているが、覆土の状況から、後世のものと考えている。下段の水田面については、水田床土の下は地山の粗砂層である。

第7トレンチ(第9・10図)

第6トレンチ同様、横穴の存在しない部分に設定したトレンチである。この付近から北にかけては、崖面がやや西寄りに湾曲しており、第8トレンチにかけて、三角形の台地状の張り出しが認められる。第7トレンチの付近も、崖面直下の上段の部分と、2m近い段差を持つ中段、さらに里道をはさんで東側の水田面と3段になっており、高低差は約3mである。このトレンチでも、第4トレンチ同様に凝灰岩の転石が多量に埋まっており、上段から中段においては完掘することが困難であった。水田部分に設定した下段トレンチでは、上段から中段とは様相が異なっており、繁根木川に向けて傾斜を持ち、砂質土が堆積している。

遺物は、中段から下段にかけて須恵器が若干出土している。(第12図)

第8トレンチ (第10図)

横穴墓群が造営されている崖線がやや西寄りに方位を変える屈曲部には、段丘状の張り出しが認められる。そのもっとも張り出した部分に設定したのが第8トレンチである。39号から43号墓が並ぶ崖面直下からトレンチを設定すべきであったが、上段の部分については明治年間に登記されて以来相続の手続きが行われておらず、同意を得ることが困難であったため、トレンチの設定を断念した。

一面の竹林となっていたため伐採を行った。重機により表土を掘削し、褐色を呈する層が確認されたため、一旦、その上面で撤えた。西端部では砂層が確認されており、他のトレンチでは確認されていない土層であったことに加え、黒褐色土のブロックが含まれていたため、2次的な堆積と判断し、人力による掘り下げを行った。粘性が強く掘削が難航し、また掘削深度も深くなったため、西端部の砂層から東側にかけて深掘を行い、下位の土層の確認を行った。その結果、褐色土の下位において、還元し灰色を呈する砂層(V層)が確認された。上位の褐色土については、東側への傾斜が認められ、台地上からの地滑り等によるものと考えており、下位の砂層が、自然堆積によるものと判断している。

第9トレンチ (第11図)

もっとも北側に位置、現時点で公表されている分布図には含まれていない44号墓から46号墓のうち、44号墓前面に設定したトレンチである。43号墓から44号墓の間は横穴墓が確認されていない空白部分がある。この部分は崩落が認められるが、凝灰岩の硬度が低く、当初から石質を選んでいたことを考えると、当初から造営されていなかった可能性がある。

北側の水田面から、44号横穴墓の床面までは7m以上の高低差がある。現状では水田面を含め4段のステップからなる。このうち、水田面から1m程高くなっているステップから、44号墓直下までトレンチを設定した。

最上段では、IVc層としている溶結度の低い凝灰岩がみられ、その上に凝灰岩が風化したことによる土層の堆積がみられる。そこから一段下がったステップがあり、凝灰岩の計mはあろうかという転石がある。上面に浅い窪みがあり、人為的なものとみている。第4・第7トレンチでもほぼ同様の位置に、大きめの転石がみられ、意図的に設置されている可能性もあるが、明らかにできていない。そこからさらに下の段は、最下層に地山である粗砂の堆積が認められ、湧水が著しい。下段の部分は、本来湧水池であった部分を、埋め立てたものと考えている。遺物はほとんどが下段の湧水池部分から出土している。(第12図)

第10トレンチ (第10図)

第2・第3トレンチにおいて、遺物包含層及び南北方向に延びるステップが確認されており、第1トレンチでは確認できなかったため、遺存範囲を確認するため、第2トレンチと第3トレンチの間に設定したトレンチである。しかし、このトレンチでは第1トレンチと同様の状況であり、第2・第3トレンチからの続きが確認されなかったため、第11トレンチを設定した。

第11トレンチ（第11図）

第2トレンチと第10トレンチの間に、第10トレンチと同じ目的で設定したトレンチである。第2トレンチの南側には既存の建物があり、トレンチの場所が限定されていたため、東側の斜面に設定した。表土と無遺物層と判断した褐色を呈する粗砂層の間に、わずかに第2トレンチで確認されたⅢ層と近似する層を確認している。

第12トレンチ～第14トレンチ

第1から第3トレンチを設定した段丘状の部分から、一段下がった水田に設定したトレンチである。いずれも、水田耕作土層の下は地山の砂層であり、遺構・遺物等については確認していない。

第15～第17トレンチ（第11図）

第12トレンチ～第14トレンチを設定した水田からさらに一段下がった水田に設定したトレンチである。第15トレンチでは、水田耕作土の下に第12トレンチ～第14トレンチ同様の砂層が確認された。第16・第17トレンチでは、褐色を呈する地山の粗砂層の上位に、やや細かい川砂の堆積が認められた。締まりが弱く、灰色がかっており、繁根木川の旧流路と判断している。遺物は近世以降の磁器小片をわずかに確認している。

7 まとめ

第2・第3トレンチで確認したステップ及び浅い溝状の遺構については、墓道として使われていた可能性を考えているが、第2・第3トレンチでの検出のみであり、確証を得るに至っていない。里道をはさんだ北側を追跡して調査する必要があるが、この部分は崖面の崩壊の可能性があり、危険が伴うため、今回の調査ではトレンチを設定しなかった。

第4トレンチについては、多量の凝灰岩転石に阻まれて完掘していない。この部分がもっとも遺構が残存している可能性が高く、条件が整えば調査範囲を拡大して、確認すべきと考えている。

第4・第7・第9トレンチにおいては、横穴墓の前面4～6m程のところ凝灰岩の転石によりステップ状の段が認められる。人為的なものか否かを解明するにいたっていないが、いずれも同様の位置にあり、人為的にステップを設けている可能性が高いと考えている。第1・第6・第10・第12から第17トレンチでは、横穴群と関連する遺構等については確認することができなかった。

前庭部の構造については、近年、熊本市のつづじヶ丘横穴群の報告書が刊行され、前庭部を共有する横穴墓群として報告されており、前庭部から墓道についても詳細な調査が行われている。同様の形態を持つものとして、つづじヶ丘横穴群と同じ谷に造営されている、浦山第1横穴群がある。しかし、いずれも緩やかな傾斜地に営まれているものである。凝灰岩の崖面に営まれているものについては調査例が少なく、前庭部の構造が明らかになっているものは少なく、山鹿市の湯の口横穴群、七城町の瀬戸口横穴群などで、遺存状態の比較的良好のものの一部が調査されているにすぎない。横穴墓の高さに比べ現状の地表面は低くなっており、横穴墓築造時のレベルがどの程度のものであったかを明らかにすべきであるが、その後の土地利用の過程において削平されている部分も多く、

今回の調査では明らかでなかった。第4トレンチを設定した8号墓周辺について調査範囲を拡大することにより、今後明らかにすることができるものと考えている。

横穴墓の年代については、これまで遺物が公表されておらず、形態や装飾文様の変遷から、高木正文氏（高木1983, 1985, 1999）、西住欣一郎氏（西住1980, 1981）らをはじめ先学諸氏による編年が試みられている。最新のものでは、美濃口雅朗氏の論考があり（美濃口2001）、ナギノ横穴群の出現期を6世紀初頭としている。

出土遺物については、トレンチ調査であるため少量ではあるが、横穴の年代観を考えるうえで重要である。全体に大きな時期幅は認めがたく、ほぼ6世紀代後半の所産と考えている。下限については、坏が小径化しているが、身と蓋の逆転まではいたっていないことから、6世紀代に収まると考える。限られた遺物であり、原位置を保つものがないが、横穴墓の造営については、遺物から見る限り6世紀後半代を中心とした時期と考えている。

今回の調査では、横穴群の環境に配慮して最小限のトレンチの設定に留めた。このため、十分に状況を把握するにはいたっていない。今後は、今回の成果を元に、横穴前底部の構造の解明と年代の把握に努め、横穴群の実像に迫ることができればと考えている。

最北端に位置する未指定の44～46号墓周辺については、分布調査を行った。その結果、新たな横穴墓は確認されなかったが、46号墓から北西方向約25mの範囲については、凝灰岩の崖が埋まっており、存在の可能性は否定できない。また、最南端の48号墓から石貫穴観音横穴にかけての西側崖面では、現時点では横穴墓は確認されていないが、崖下の民家において須臾器が採集されており、横穴墓が存在する可能性がある。

石貫穴観音横穴については、最南端の5号墓が指定範囲から一部外れているとの指摘があったため、今回座標測量を行った。その成果を基に熊本大学作成の配置図を地籍図に重ねたところ、5号墓の南半が隣接する民地に含まれていることが明らかになった。（第13図）

今回調査を行ったナギノ横穴群前底部部分は、横穴墓本体と不可分であり、横穴墓の保存と活用においても不可欠である。環境を保全するためにも、遺構と一体的に保護すべきものである。未指定のナギノ横穴群44～46号墓及び穴観音横穴5号墓を含め、石貫ナギノ横穴群と石貫穴観音横穴について、今後の保護と活用に向けての基礎資料の蓄積を図る方針である。

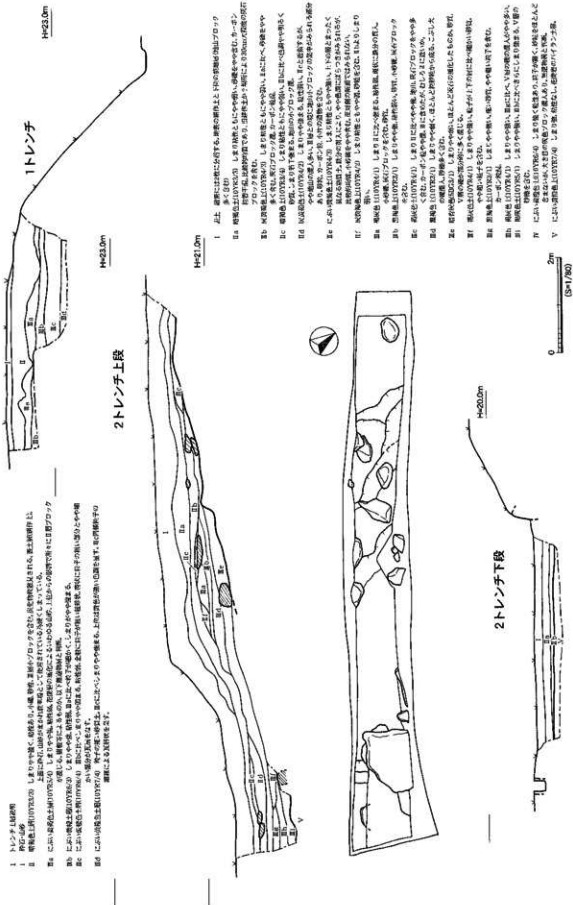
（参考文献）

- 高木正文 1985「まとめと考察」『古城横穴群』熊本県文化財調査報告第74集 熊本県教育委員会
高木正文 1985「まとめ」『福原横穴墓群』熊本県文化財調査報告第77集 熊本県教育委員会
高木正文 1999「肥後における装飾古墳の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告第80集』

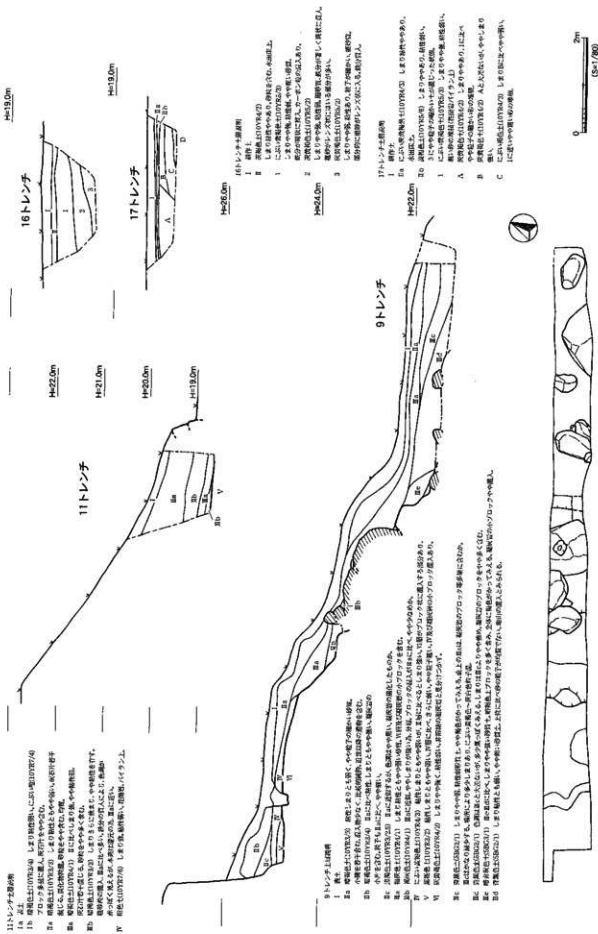
国立歴史民俗博物館

- 西住欣一郎・宮本千絵 1980「まとめ」『石貫ナギノ・石貫穴観音横穴群』金曜会
西住欣一郎 1981「横穴墓天井構造に関する試論」『赤れんが』創刊号 赤れんが刊行会
西住欣一郎 1991「肥後における横穴墓について」『大分考古』第4集 大分県考古学会
美濃口雅朗 2001「地域の概要-肥後-」『九州の横穴墓と地下式横穴墓 第1分冊』

九州古墳時代研究会

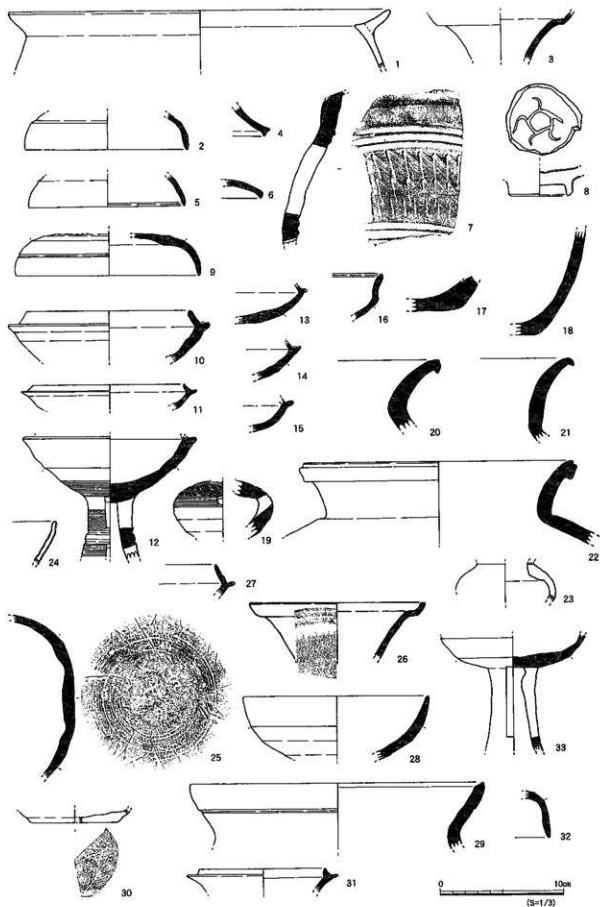


第6図 確認調査トレンチ実測図(1T, 2T)



11トレンチ土質説明
 1a 表土
 1b 腐植土(10%)
 2a 小礫層(10%)
 2b 砂質土(10%)
 3a 粘土(10%)
 3b 砂質土(10%)
 4a 砂質土(10%)
 4b 粘土(10%)
 5a 砂質土(10%)
 5b 粘土(10%)
 6a 砂質土(10%)
 6b 粘土(10%)
 7a 砂質土(10%)
 7b 粘土(10%)
 8a 砂質土(10%)
 8b 粘土(10%)
 9a 砂質土(10%)
 9b 粘土(10%)
 10a 砂質土(10%)
 10b 粘土(10%)
 11a 砂質土(10%)
 11b 粘土(10%)
 12a 砂質土(10%)
 12b 粘土(10%)
 13a 砂質土(10%)
 13b 粘土(10%)
 14a 砂質土(10%)
 14b 粘土(10%)
 15a 砂質土(10%)
 15b 粘土(10%)
 16a 砂質土(10%)
 16b 粘土(10%)
 17a 砂質土(10%)
 17b 粘土(10%)

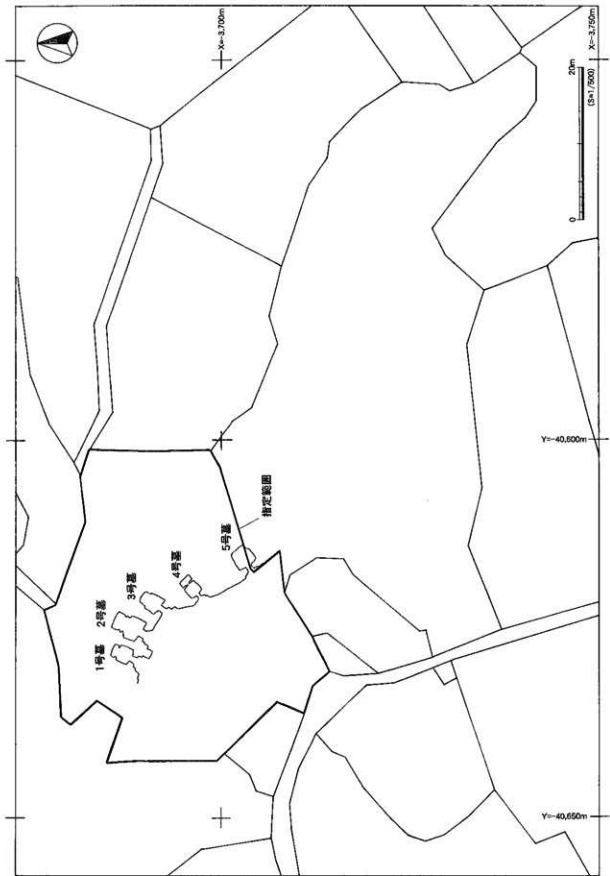
第11図 確認調査トレンチ実測図(9T,11T,16T,17T)



第12圖 出土遺物実測圖

調査年度	出土地点	種類	状態	部位	口径	底径	器高	脚径(外)	脚径(内)	色面(%)	色面(内)	胎土	備考
1	27川原	灰生土器	壁	口縁	(30.4)	-	(4.6)	不明	不明	灰25Y7/2	灰黒色2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含む	普通
2	27川原	須恵器	坏壁	口縁	(13.0)	-	(2.9)	凹形ナズ	凹形ナズ	明赤褐色5Y6/6	灰褐色5Y6M/2	0.5mm以下の白色砂粒含む	良
3	27上川原	須恵器	底	底部	-	-	(3.7)	凹形ナズ	凹形ナズ	灰10Y4/1	暗灰褐色2.5Y5/2	0.5mm以下の白色粒多く僅かに含む	普通
4	47上川原	須恵器	高坏	肩部	-	-	(2.4)	凹形ナズ	凹形ナズ	緑5Y6B/8	緑5Y6B/8	0.5mm以下の白色粒ごく僅かに含む	普通
5	47中川原	須恵器	坏壁	口縁	(12.4)	-	(2.5)	凹形ナズ	凹形ナズ	にがい黄緑10Y6B/4	にがい黄緑10Y6B/4	1mm以下の砂粒含む	普通
6	47中川原	須恵器	坏壁	口縁	-	-	(1.5)	凹形ナズ	凹形ナズ	オリーブ灰5Y6R/6/1	灰白N/7	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
7	31中川原	須恵器	鉢台	口縁	-	-	(12.1)	凹形ナズ	ナズ	褐灰10Y6B/1	灰黄緑10Y6B/2	0.5mm程度の黒色粒少量含む	良
8	47上川原	青磁	碗	底部	-	5.0	(2.3)	凹形ナズ	ナズ	(土)灰N/6	(物)明緑灰10GY7/1	微塵	良
9	47中川原	須恵器	坏壁	口〜胴	(14.8)	-	(3.3)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	灰白7.5Y7/1	1mm以下の灰石・石灰含む	0.2mm以下の白色粒ごく僅かに含む	普通
10	47中川原	須恵器	坏身	口〜胴	(13.3)	-	(3.9)	凹形ナズ	凹形ナズ	褐灰色5Y6B/1	灰褐色5Y6B/2	0.3mm以下の白色粒少量含む	良
11	47下川原	須恵器	坏身	口縁	(12.0)	-	(2.0)	凹形ナズ	凹形ナズ	暗青灰5B5G/1	暗青灰色5B5G/1	0.3mm以下の灰石少量含む	良
12	47中川原	須恵器	高坏	胴〜脚	-	-	(9.6)	凹形ヘラケズリ	ナズ	灰黒5Y6B/2	褐灰5Y6B/1	0.5mm以下の白色粒ごく僅かに含む	良
13	25下川原	須恵器	坏身	胴〜底	-	-	(2.7)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	灰N/6	灰N/6	0.5mm程度の白色粒ごく僅かに含む	良
14	29下川原	須恵器	坏身	口〜胴	-	-	(2.7)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	褐灰色7.5Y6B/1	灰褐2.5Y6B/2	1mm以下の砂粒含む	良
15	26下川原	須恵器	坏身	胴部	-	-	(2.4)	凹形ナズ	凹形ナズ	オリーブ灰2.5Y5/6N/1	灰N/6	1mm以下の砂粒含む	良
16	17下川原	須恵器	高坏	口縁	-	-	(3.6)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	灰N/6	灰N/6	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
17	13下川原	須恵器	不明	不明	-	-	(2.7)	凹形ヘラケズリ	ナズ	暗灰N/3/1	灰色M/1	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
18	21中川原	須恵器	不脚	胴〜底	-	-	(8.2)	ナズ	ナズ	灰2.5Y5/1	灰白7.5Y7/1	0.5mm以下の白色粒ごく僅かに含む	良
19	30中川原	須恵器	皿	底部	-	-	(4.4)	凹形ヘラケズリ	ナズ	暗灰N/3/1	灰N/6	1mm以下の砂粒含む	良
20	8中川原	須恵器	壁	口縁	-	-	(5.6)	カキ目	当て具痕	暗青灰10B6G/1	暗青灰10B6G/1	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
21	10下川原	須恵器	壁	口縁	-	-	(6.5)	ナズ	ナズ	灰2.5Y5/1	灰白7.5Y7/1	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
22	10下川原	須恵器	壁	口縁	(22.0)	-	(6.6)	ナズ	当て具痕	灰白N/7	灰白N/7	1mm以下の白色粒を少量含む	良
23	15下川原	土師器	壺	口縁	-	-	(3.2)	ヘラミガキ	不明	にがい黄緑10Y6B/4	にがい黄緑10Y6B/4	0.5mm程度の白色粒ごく僅かに含む	良
24	14中川原	陶器	不明	不明	-	-	(3.4)	-	-	(物)にがい黄緑10Y7/4	0.5mm以下の白色粒むかがに含む	良	
25	57中川原	須恵器	残壁	口縁	-	-	(4.6)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	青黒5B5G/1	青黒5B5G/1	0.5mm程度の白色粒ごく僅かに含む	良
26	28中川原	須恵器	皿	口〜胴	(14.0)	-	(4.6)	凹形ナズ	凹形ナズ	灰N/6	灰N/6	1mm以下の黒色粒含む	普通
27	4中川原	須恵器	坏身	口縁	-	-	(2.5)	凹形ナズ	凹形ナズ	灰白N/7	灰白N/7	1mm程度の石灰質母体かに含む	普通
28	11中川原	須恵器	高坏	底部	(14.8)	-	(5.0)	凹形ヘラケズリ	ナズ	灰2.5Y7/2	灰2.5Y7/2	0.3mm以下の白色粒むかがに含む	良
29	22中川原	須恵器	高坏	口縁	(23.4)	-	(5.3)	凹形ヘラケズリ	ナズ	にがい黄緑10Y6B/3	暗灰5Y6M/1	0.5mm以下の灰石・黒色粒含む	良
30	12上川原	須恵器	皿	底部	-	(7.0)	(1.1)	ナズ	ナズ	にがい黄緑10Y6B/3	暗灰5Y6M/1	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
31	9上川原	須恵器	坏身	口縁	(10.0)	-	(1.9)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	暗灰5Y6M/1	暗灰5Y6M/1	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
32	16上川原	須恵器	壁	口縁	-	-	(3.7)	凹形ヘラケズリ	凹形ナズ	褐灰色N/6	灰4/1	0.5mm以下の白色粒少量含む	良
33	262番地家集	須恵器	高坏	胴〜脚	-	-	(9.1)	凹形ヘラケズリ	ナズ	灰N/6	灰N/6	0.5mm以下の白色粒含む	良

平成15年度石貫ナズノ堀穴群確認調査出土遺物解説表



第13圖 石貫穴觀音橫穴周辺地籍圖

写 真 图 版

図版 1

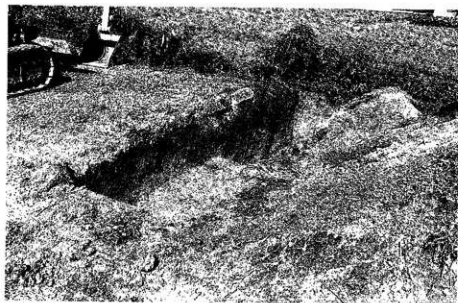
石貫ナギノ横穴群
(南東から)



石貫ナギノ横穴群
(北東から)



第1トレンチ全景
(南西から)



図版2



第1トレンチ土層
堆積状況(南から)



第2トレンチ上段全景
(東から)



第2トレンチ上段
土層堆積状況(西から)

図版3

第2トレンチ下段全景
(南から)



第2トレンチ下段
土層堆積状況(南西から)



第3トレンチ全景
(東から)





第3トレンチ下段土層堆積状況(西から)



第4トレンチ全景(東から)



第4トレンチ上段全景(東から)

図版5



第4トレンチ上段
土層堆積状況(西から)



第4トレンチ下段全景
(西から)



第5トレンチ上段全景
(東から)

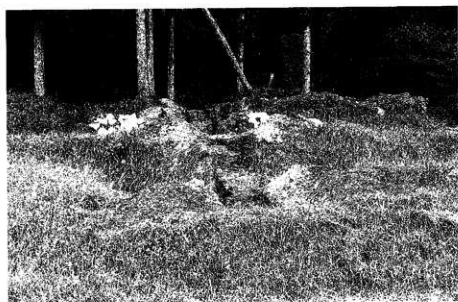
図版6



第5トレンチ上段
土層堆積状況(西から)

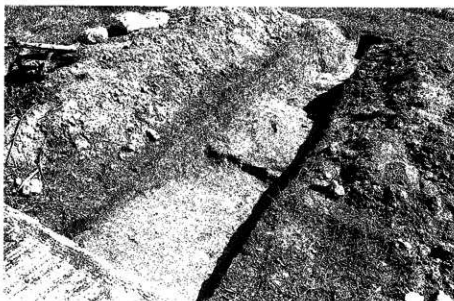


第5トレンチ下段全景
(西から)



第6トレンチ全景
(東から)

図版7



第6トレンチ下段全景
(西から)



第7トレンチ上段全景
(東から)



第7トレンチ上段
土層堆積状況(西から)

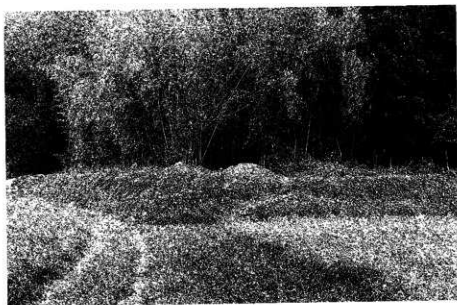
図版8



第7トレンチ上段
土層堆積状況(東から)



第7トレンチ下段全景
(西から)



第8トレンチ全景
(北東から)

図版9



第8トレンチ全景(北東から)



第9トレンチ全景(北東から)



第9トレンチ上部(北東から)



第9トレンチ全景(南西から)

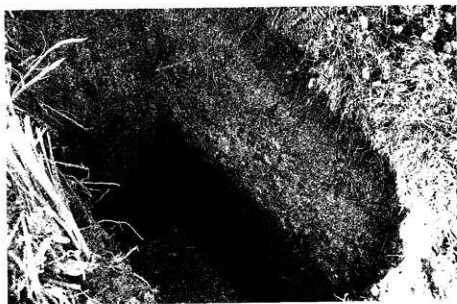
図版10



第10トレンチ全景
(南東から)



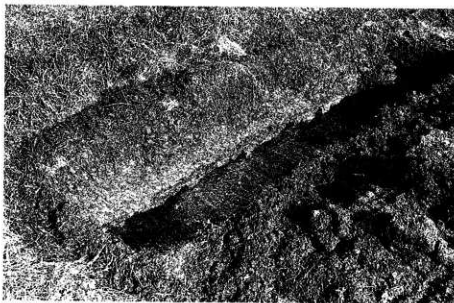
第11トレンチ全景
(南東から)



第11トレンチ
土層堆積状況(南東から)

図版11

第12トレンチ全景
(南西から)



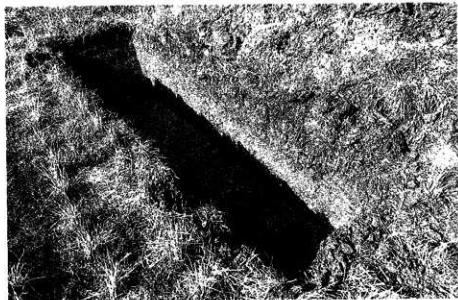
第13トレンチ全景
(南西から)



第14トレンチ全景
(南から)



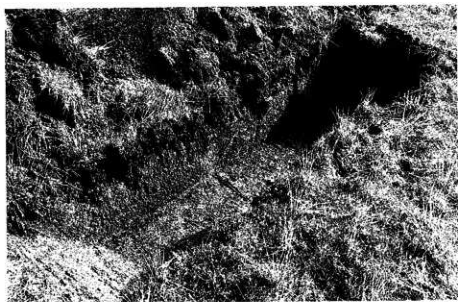
図版12



第15トレンチ全景
(南から)



第16トレンチ全景
(南から)

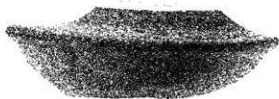


第17トレンチ全景
(南から)

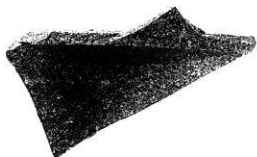
图版13



2



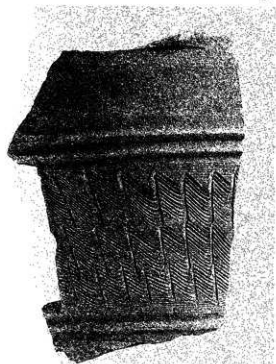
10



3



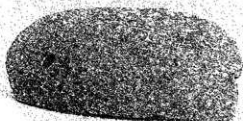
12



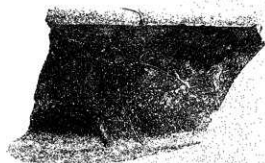
7



19



9



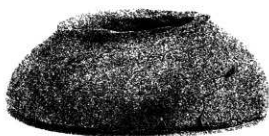
21



22



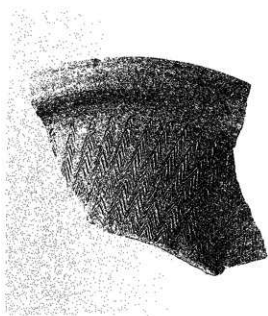
29



23



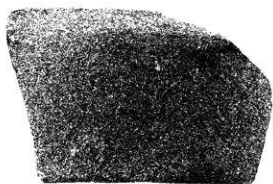
33



26



28



32

報告書抄録

ふりがな	いしぬきなぎのよこあなくん											
書名	石貫ナギノ横穴群											
副書名	確認調査報告書											
巻次	次											
シリーズ名	玉名市文化財調査報告											
シリーズ番号	第14集											
編著者名	竹田宏司・末永崇											
編纂機関	玉名市教育委員会											
所在地	〒865-0051 熊本県玉名市繁根木88-1											
発行年月日	平成17年3月31日											
ふりがな	ふりがな	コ	—	K	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市	町	村	道	跡	番	号				
いしぬきなぎのよこあなくん 石貫ナギノ横穴群	くまもと けん たまな し 市 いしぬき なぎ 石貫		43	206		014		32°57'55"	130°34'02"	平成15年8月19日 ↓ 平成16年3月31日	約10,000	
所収遺跡名	種	別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項						
石貫ナギノ横穴群	横穴墓		古墳時代	横穴墓	須恵器、土師器							

玉名市文化財調査報告 第14集

石貫ナギノ横穴群

平成17年3月31日発行

編集発行 玉名市教育委員会
〒865-0051 熊本県玉名市繁根木88-1
TEL0968-75-1312・FAX0968-75-1164

印刷 株式会社 有明印刷
〒865-0022 熊本県玉名市寺田123-1
TEL0968-73-2055・FAX0968-72-3504

